

# News Release

No. 57-179

2021年2月18日

## 県内企業の冬のボーナスは前年比▲3.5%、5年振りの減少

———埼玉県内企業 2020年冬のボーナス支給状況アンケート調査 ———

2020年冬のボーナス支給状況について、県内企業へのアンケート調査を実施した（1月実施。対象企業1,030社、回答企業272社、回答率26.4%）。

○2020年冬のボーナス支給総額を支給対象人員で割った、一人当たり支給額は430,003円となり、前年実績の445,701円に比べ3.5%の減少となった（ボーナス支給実額を記入いただいた企業210社を集計）。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で業績が悪化したところが多いとみられ、5年振りの減少となった。

業種別にみると、製造業は507,803円と前年の555,889円から8.7%の減少、非製造業は383,626円で前年の378,157円から1.4%の増加となった。製造業では、電機機械（前年比▲27.5%）、金属製品（同▲19.0%）、輸送機械（同▲9.6%）などで大きな減少となった。非製造業では、小売（前年比+6.8%）、建設（同+4.8%）などでプラスとなったが、飲食店・宿泊（同▲49.7%）では大きな減少となった。

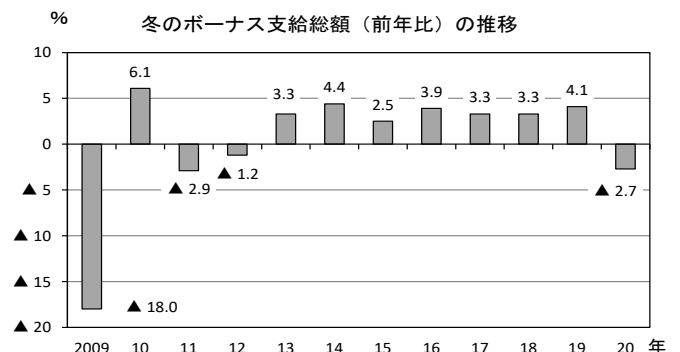
2020年冬のボーナス一人当たり支給額

(社、円、%)

	企業数	一人当たり支給額		
		2020年	2019年	前年比
全産業	210	430,003	445,701	▲ 3.5
製造業	85	507,803	555,889	▲ 8.7
非製造業	125	383,626	378,157	1.4

○アンケート回答企業の2020年冬のボーナス支給総額は144億61百万円で、当該企業の前年実績148億57百万円から2.7%の減少となった。支給対象人員は前年比+0.9%の増加となったが、一人当たり支給額の減少が大きく、2013年以来増加を続けてきた冬のボーナス支給総額は、8年振りの減少となった。

業種別の支給総額の前年比をみると、製造業が前年比9.4%の減少、非製造業が同3.4%の増加。支給対象人員は製造業で前年比0.9%の減少、非製造業で同2.0%の増加となった。



○2021年夏のボーナス支給予定については、2020年夏のボーナスに比べて、「増加」15.5%、「変わらない」52.6%、「減少」25.9%、「支給しない」6.0%となった。「変わらない」とするところが半数以上と多いが、「減少」が「増加」を上回った。新型コロナウイルス感染症の先行きが見えないなか、今後の業績等について厳しい見方をするところがあり、今夏のボーナスも厳しい状況も予想される。（照会先 吉嶺）

2021年夏のボーナス支給予定

(%)

	増加	変わらない	減少	支給しない
全産業	15.5	52.6	25.9	6.0
製造業	21.4	51.0	23.5	4.1
非製造業	11.8	53.6	27.5	7.2

## 2020年冬のボーナス支給状況について

2020年冬のボーナス支給状況について、県内企業へのアンケート調査を実施した（対象企業1,030社、回答企業数272社、回答率26.4%）。

### （1）ボーナス支給実績の有無

2020年冬のボーナスの支給実績をたずねたところ、「正社員・パートともに支給」とした企業は56.9%、「正社員のみ支給」とした企業は34.2%、「支給しない」とした企業は8.9%となり、9割以上の企業でボーナスを支給している。

前年実績と比較すると、「正社員・パートともに支給」は1.6ポイント減少、「正社員のみ支給」は0.4ポイント増加、「支給しない」は1.2ポイント増加した。これまで、人手不足感の強まりもあり、パート、アルバイトを含めてボーナスを支給する企業が増えてきたが、今回は減少した。また、「支給しない」とする企業は減少傾向にあったが、今回増加した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で業績が悪化している企業が多くなっているためとみられる。

業種別にみると、「正社員・パートともに支給」とする企業は製造業では64.2%、非製造業では52.1%である。前年実績と比べると、製造業で6.8ポイントと大きく減少した。「支給しない」は製造業で9.4%、非製造業で8.6%であった。製造業はもともと支給する割合が高かったが、今回のボーナスについては、厳しい対応を余儀なくされたところが多かったようだ。

2020年冬のボーナス支給実績の有無 (%)

	合 計	製造業	非製造業
正社員・パート ともに支給	56.9 (58.5)	64.2 (71.0)	52.1 (50.3)
正社員のみ支給	34.2 (33.8)	26.4 (23.4)	39.3 (40.6)
支給しない	8.9 (7.7)	9.4 (5.6)	8.6 (9.1)

( ) 内は2019年実績

### （2）一人当たりボーナス支給額

2020年冬のボーナス支給総額を支給対象人員で割った、一人当たり支給額は430,003円となり、前年実績の445,701円に比べ3.5%の減少となった（ボーナス支給実額を記入いただ

2020年冬のボーナス一人当たり支給額 (社、円、%)

	企業数	一人当たり支給額		
		2020年	2019年	前年比
全産業	210	430,003	445,701	▲ 3.5
製造業	85	507,803	555,889	▲ 8.7
非製造業	125	383,626	378,157	1.4

いた企業210社を集計)。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で業績が悪化したところが多いとみられ、5年振りの減少となった。

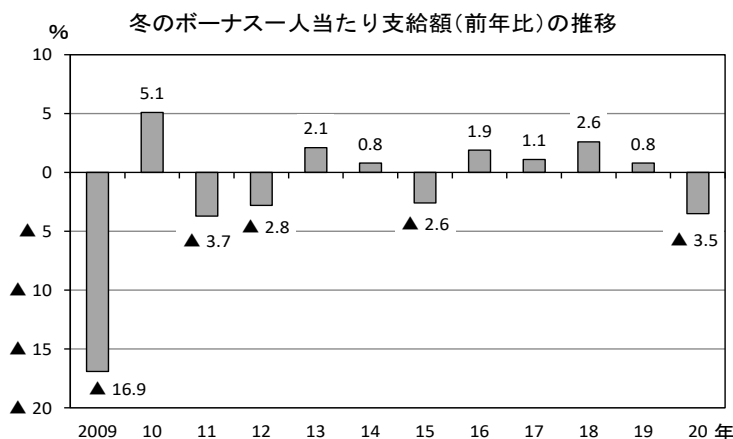
業種別にみると、製造業は507,803円と前年の555,889円から8.7%の減少、非製造業は383,626円で前年の378,157円から1.4%の増加となった。製造業では、電機機械（前年比▲27.5%）、金属製品（同▲19.0%）、輸送機械（同▲9.6%）などで大きな減少となった。非製造業では、小売（前年比+6.8%）、建設（同+4.8%）などでプラスとなった一方、飲食店・宿泊（同▲49.7%）では大きな減少となった。

### （3）冬のボーナス一人当たり支給額（前年比）の推移

冬のボーナス一人当たり支給額（前年比）の推移をみると、2009年にリーマンショックの影響を受け、企業収益、雇用環境の悪化などにより2ケタ減と大幅な落ち込みとなった。2010年は生産等の回復により、製造業を中心に収益の改善に応じてボーナス支給額を回復する動きがみられたが、2011年、2012年と再び減少となった。

2013年は景気の持ち直しにより、企業収益にも改善の動きがみられ、冬のボーナスは2010年以来3年ぶりに前年を上回り、2014年も2年連続で増加となった。2015年は前年の消費増税の影響が長引き、業況回復が遅れたことに加え支給対象が広がったことから、一人当たり支給額が下押し

しされ3年振りのマイナスとなった。2016年以降は企業業績の回復に加え、人手不足感の強まりから4年連続でプラスとなったが、2020年は5年振りでマイナスとなった。



### （4）冬のボーナス支給総額と対象人員

アンケート回答企業の2020年冬のボーナス支給総額は144億61百万円で、当該企業の前年実績148億57百万円から2.7%の減少となった。支給対象人員は前年比0.9%の増加となったが、一人当たり支給額の減少が大きく、2013年以来増加を続けてきた冬のボーナス支給総額は、8年振りの減少となった。

業種別の支給総額の前年比をみると、製造業が前年比9.4%の減少、非製造業が同3.4%の増加。支給対象人員は製造業で前年比0.9%の減少、非製造業で同2.0%の増加となった。製造業では、一人当たり支給額の減少に加え、支給対象人員も減少したことから、支給総額は大きな減少となった。非製造業では支給総額、支給人員とも前年に比べ増加した。

2020年冬のボーナス支給総額と対象人員

(百万円、人、%)

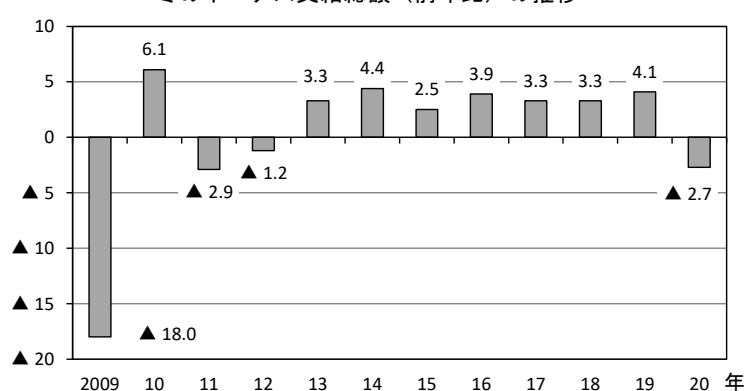
	支給総額			支給対象人員		
	2020年	2019年	前年比	2020年	2019年	前年比
全産業	14,461	14,857	▲ 2.7	33,630	33,334	0.9
製造業	6,378	7,042	▲ 9.4	12,560	12,668	▲ 0.9
非製造業	8,083	7,815	3.4	21,070	20,666	2.0

### (5) 冬のボーナス支給総額（前年比）の推移

冬のボーナス支給総額（前年比）の推移をみると、2009年に大きな落ち込みとなった後、2010年は製造業を中心に大きく落ち込んだ前年からボーナスを回復するところが多く、比較的大きな増加となった。しかし、その後の景気減速により経営環境は厳しくなり、2011年、2012年と2年連続の減少となった。

2013年は一人当たり支給額同様、2010年以来3年ぶりに前年を上回った。2014年はパート・アルバイトを含めた支給対象の拡大もあり、支給総額は比較的大きな増加となった。以降、企業業績の改善、人手不足への対応もあり支給総額の増加が続いたが、2020年は8年振りに減少となった。

冬のボーナス支給総額（前年比）の推移



### (6) 2021年夏のボーナス支給予定

2021年夏のボーナス支給予定については、2020年夏のボーナスに比べて、「増加」15.5%、「変わらない」52.6%、「減少」25.9%、「支給しない」6.0%となった。「変わらない」とするところが半数以上と多いが、「減少」が「増加」を上回った。新型コロナウイルス感染

症の先行きが見えないなか、今後の業績等について厳しい見方をするところがあり、今夏のボーナスも厳しい状況も予想される。

業種別にみると、製造業では「増加」が21.4%、「減少」が23.5%。非製造業では「増加」が11.8%、「減少」が27.5%と、いずれも「減少」が「増加」を上回っている。

#### 2021年夏のボーナス支給予定

(%)

	増加	変わらない	減少	支給しない
全産業	15.5	52.6	25.9	6.0
製造業	21.4	51.0	23.5	4.1
非製造業	11.8	53.6	27.5	7.2

業種別対象・回答企業数（2020年冬のボーナス支給状況について）

	対象企業数	回答企業数	業種別構成比 (%)	うち中小企業 の占める比率 (%)
全 産 業	1,030	272	100.0	92.6
製 造 業	389	107	39.3	97.2
食 料 品	49	16	5.9	100.0
織 維	20	5	1.8	100.0
紙・紙加工品	19	8	2.9	100.0
化 学	50	11	4.0	90.9
窯 業・土石	20	6	2.2	100.0
鉄鋼・非鉄金属	19	4	1.5	100.0
金 属 製 品	21	5	1.8	100.0
一 般 機 械	48	4	1.5	100.0
電 気 機 械	39	14	5.1	100.0
輸 送 機 械	48	14	5.1	85.7
印 刷	21	6	2.2	100.0
そ の 他 製 造	35	14	5.1	100.0
非 製 造 業	641	165	60.7	89.7
卸 売	79	28	10.3	89.3
小 売	90	15	5.5	53.3
建 設	84	26	9.6	96.2
不 動 産	48	11	4.0	100.0
運 輸・倉庫	69	18	6.6	100.0
電 気・ガス	19	8	2.9	100.0
情 報 通 信	40	13	4.8	100.0
飲 食 店・宿泊	42	5	1.8	100.0
サ ー ビ ス	170	41	15.1	85.4